

# フィンネットワーク通信

2016年9月号

こんにちは！  
フィンネットワークの赤木広紀です。



小学校の夏休みも終わり、2学期が始まりました。私達の頃は、8月31日まで目一杯、休みがありましたが、最近は少し早いようです。

夏休みと言え、たっぷり出される宿題。これは今も昔も変わりません。中でもいつも最後まで残ったのは、自由研究（工作）でした。

その血を引いたのが、娘もギリギリまで手を付けず、最後の週間で一気に仕上げるということに。



カッターナイフを使うところもあったので、少し手伝うと、なんだか楽しくなって、思わず頼まれたこと以上にやってしまいました。

夏休みの工作を親が手伝うことについて批判的な記事を見たことがありましたが、案外、親のほうが楽しくて勝手にやってしまうこともあるのでしょうか。

それでは今月もよろしくお祈りします！

## 森林限界を越えて



8月号で予告したとおり、富士山に登ってきました。詳しい顛末は、ウラ面に譲りますが、途中、高山病にかかり八合目半まで登ったところで下山。

残念ながら、山頂はおあずけとなりましたが、それでも今回の富士登山を経験したからこそその気づきがありました。

「森林限界」という言葉があります。高い木が生育できなくなる限界高度のことを指します。場所によりその高さは変わりますが、富士山だと約2500mになります。

5合目から6合目までは、自然豊かな森の中を歩く感じですが、6合目を越えたあたりからだんだん木が減ってきて、岩と岩の間に生える小さな植物に変わり、8合目を越えると、植物は消え去り、岩と赤土だけの世界が延々と続きます。

昔、マウイ島のハレアカラ火山に行ったとき、まるで月が火星に来たのか？と思ったことがあります。その感覚がよみがえってきました。

森は、様々な動植物を生かす多様性に満ち溢れた印象を持ちますが、それに対して、岩と赤土むき出しの山は、すべての動植物の存在を拒絶する、一種の畏怖感がありました。そして、それもまた自然の本来の姿なんだと知ったのです。

「自然に癒される」「自然にやさしい」「自然を大切に」という言葉を多々目にしますが、それは、人間にとって都合のいい「森」のイメージを自然に被せていただけだったんだと。それは自然のごく一部であって、自然はまた、動植物を拒絶する無慈悲な存在でもあると。

そのことに気づいたとき、人間というのはちっぽけな存在であり、逆に無意識に入っていた力が抜けて、ふっとラクになりました。エゴの重要感が落ちたのかもしれない。

自然は受け入れ、また、突き放す。人間もまた自然の一部であるなら、受け入れる優しさと突き放す冷たさの両方を持つことこそが、自然なのかもしれない。

富士山からそんなことを教えられました。

## 「勝利を、信じろ」

普段、それほど小説は読まない私が、本屋でたまたま見つけて、思わず買ってしまった本が、こちら→



半沢直樹シリーズでお馴染みの池井戸潤さんの新刊「陸王」

<http://goo.gl/7Y2i9j>

足袋作り百年の老舗が、新規事業として新しいランニングシューズ製造に挑む話です。

新規事業を始めるとやってくる困難や障害。それに真正面から取り組んでいるとどこからか現れる救世主。うまくいくかと思ったら、また大きなトラブル発生。事業を継続するかどうかの岐路に立たされて・・・と、ピンチとチャンスがこれでもかこれでもかと繰り返される池井戸潤さんらしさが満載の小説です。

今、何かにチャレンジしていたり、これからチャレンジしようという方は、ぜひ読んでください。静かな勇気が湧いてきますよ。

**次はアミーゴのコーナーです！→**

# アミーゴのゆるめる毎日

ファインネットワーク “福” 社長の朝比奈です。

ついに登ってきました。日本人のふるさと・富士山に！

「なぜ、わざわざシンドイ目をして、みんな富士山に登りたがるの…？」

富士山に登ると告げたとき、我が母は信じられな一顔して呆れてました。

近年は、30万人前後が登ると言われます。百間は一見にしかず、登山して実感したのは、多くの人を惹きつける魅力があるということでした。

下手な観光地に行くよりよほど、一人一人にドラマが生まれます。体験談を熱く語りたくなる場所です。

富士山は頂上に至るまでに4つのルートがありますが、私は登山者の半分以上は選ぶという吉田ルートにチャレンジしました。

吉田ルートの五合目。おみやげ屋やレストランが並ぶ登山道の出発口は、渋谷？心齋橋？なみの人混み！



アジア人（中国が韓国が大半）や西欧人、黒人と国際色豊かな登山客たち。日本人も負けてません。ツアー客がドカンドカンと登山道へと歩いていきます。

5合目から6合目までは緑も多く、道もなだらかで、ハイキング気分を味わえます。この後の苦難も知らず、「そういえば、富士山なんて楽勝って、誰か言ってたよな～」と呑気に構えてた私でした。

6合目を過ぎると、だんだん傾斜がきつくなります。7合目は、手をつきながらよじ登る岩場が続くのです。

**これがキツイ！ キツイ！**  
**キツすぎるーっ！**  
誰だーっ、楽勝なんて言ったヤツはー！



しかも、ともに登る社長から不穏な言葉が・・・  
「頭が痛い。気分が悪い・・・」

ムムっ。これは悪名高き高山病ではないか？

7合目途中の、宿泊する山小屋に着いたときは、心の芯からホッとしました。

私はお腹ペコペコで、夕食はぺろり完食でしたが、社長は半分しか手をつけず、早々と就寝。この山小屋で、七合目半ばで断念する覚悟もありましたが、なんと社長が回復したのです！



ご来光は山小屋からでしたが、雲海を染め上げる朝日は充分、雄大でした。



山小屋はなんと！ 6:00 チェックアウトなので、荷物をまとめて、さあ出発です。

お互い体力も回復したし、頂上目指していこう！と張り切った私達に、富士山は容赦ありませんでした。

吉田ルートはこの7～8合目すぎまで続く、岩場が難関と言われますが、昨日の疲れも出たのか、出発1時間しないうちに、早くも体力は消耗してきました。

「とりあえずアソコまでは登ろう」  
7合目に多く点在する山小屋には、入口に長椅子があります。ドサッと座り込んでの休憩とりました。

気を取り直して、8合目まで進んだところで、社長の高山病がぶり返したようで・・・。

八合目半くらいの場所に、下山道に続く道が見えました。二人とも迷いました。

あと1合半で登頂・・・満身創痍で登り切るか。しかし高山病はこの後、悪化の一途かもしれません。

もともと無理はしないと約束したので、苦渋の決断を下しました。下山道へと舵を切ったのです

永遠につづくかのごとく長い、富士山の下山道。ただ、少しずつ木々が見え始めました。社長も元気を取り戻し、私を置いてスタスタ下っていきました。

周りを見回せば皆、疲労困憊が顔に出ています。話しかける気力もないのですが、老若男女、国籍をも超えて、「みんな、がんばろーぜ」な連帯感に包まれました。

ようやく5合目に帰還できたときの安堵感。

42キロを終えたマラソン選手のように、両手バンザイでゴールです。



私の初・富士登山は、裏面全部使っても、まだ書ききれないほど体験談があります（笑）

しんどいのは保証しますが、武勇伝づくりに、一度はオススメします！（^^）

ファインネットワーク通信

発行者：赤木広紀・朝比奈映未

〒602-0853

京都市上京区宮垣町 94-102

TEL：075-951-6310

HP <http://www.finenetworld.com>

Facebook <https://www.facebook.com/finenetworld>

